

令和4年度 家庭教育専門委員会研修会

実施期日：令和4年11月7日（月）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：（一財）埼玉県高等学校安全振興会

目 次

次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 ページ

発表校資料

(1) 埼玉県立春日部女子高等学校PTA・・・・・・・・ 3 ページ

(2) 埼玉県立狭山経済高等学校PTA・・・・・・・・ 7 ページ

(3) 埼玉県立川口高等学校PTA・・・・・・・・ 11 ページ

(4) 埼玉県立深谷商業高等学校PTA・・・・・・・・ 15 ページ

令和4年度埼玉県高等学校PTA連合会 家庭教育専門委員会研修会 次 第

日時 令和4年11月7日(月)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 12:30~13:00

- 【司会・進行】 埼玉県立和光国際高等学校PTA会長 柴田 恵子
- 1 開会のことば(13:00)
埼玉県立宮代高等学校PTA会長 鳥海 由美
- 2 講演会(13:05~14:20)
(1) 講師紹介 埼玉県立秩父高等学校PTA会長 浦島 則之
(2) 講演
講師:埼玉県教育局市町村支援部人権教育課副課長 有賀 弘一 様
演題:【ヤングケアラーとその支援について】
(3) 質疑応答
(4) お礼のことば 埼玉県立秩父高等学校PTA会長 浦島 則之
- 休憩(14:20~14:30)
- 3 開会行事(14:30~14:40)
(1) 委員長あいさつ 埼玉県立秩父高等学校PTA会長 浦島 則之
(2) 指導講評者紹介(司会)
(3) 発表者・校長の紹介(司会)
- 4 研究協議(14:40~16:00)
(1) 実践発表(各校20分)
- 東部支部 埼玉県立春日部女子高等学校PTA副会長 高荷 光春
【春日部女子高校における「家庭と健康」について】
- 西部支部 埼玉県立狭山経済高等学校PTA会長 桐原 房子
【家庭教育と学校(保護者、教員の負担軽減)】
- 南支部 埼玉県立川口高等学校PTA会長 大澤 陽久
【川口高校の家庭教育】
- 北部支部 埼玉県立深谷商業高等学校PTA会長 中村 千尋
【家庭教育とPTA(本校のPTA活動について)】
- (2) 質疑応答
(3) 指導講評(16:05)
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課
社会教育主事兼指導主事 萩原 信和 様
- 5 情報提供
埼玉県高等学校PTA連合会より 事務局長 島崎 育夫
- 6 閉会のことば(16:30)
埼玉県立宮代高等学校PTA会長 鳥海 由美

専門委員会「家庭教育」

テーマ「春日部女子高校における「家庭と健康」について」

埼玉県立春日部女子高校 PTA 副会長 高荷 光春 校長 岩井 幸一

1 はじめに

春日部市は、「粕壁宿」として、宿場町として発展を遂げました。「粕壁宿」には日光東照宮の造営に携わった職人が集まり、やがて周辺で採れる桐の加工を行うようになったという歴史があり、現在でも春日部市では桐筆筥をはじめとした家具の製造が地場産業として続けられています。

今年度で創立 112 周年を迎える春日部女子高校（通称「かすじょ」）は、治安の良い閑静な住宅街に位置しています。駅からは少し遠いですが、日光道中の道標が街のあちこちに今も残っており、通学時には春日部の歴史を感じることができます。

本校の特色としては、やはり女子校であることが挙げられます。共学とは違い、学校行事や部活動などもすべて女子生徒だけで行われなければいけないため、自主性やリーダーシップが自然と養われます。また、女子生徒が過ごしやすい環境で学校生活が送れ、興味があることには、遠慮なく没頭できます。特に文化祭や体育祭などの学校行事は、他校にない盛り上がりを見せます。

私達 PTA も生徒や PTA 会員の減少が避けられない状況の中で、学校の行事には可能な限り参加・協力をして、子どもたちが楽しい「かすじょ」生活が過ごせるように努力しています。

2 調査の目的

核家族化や女性の労働参加率の上昇等、子どもの家庭環境の変化は著しく、子どもの健康に影響を与えていると考えられます。そこで、生徒及び保護者に対してアンケート調査を実施し、各家庭における食事や睡眠の現状を把握することで親子の意識などを明らかにしたいと考えました。親と子の共通の課題を認識することで、各家庭での食事や睡眠について改めて振り返ることにつながると考え、本テーマを設定しました。

3 調査の概要

- (1) 調査方法：WEB アンケートシステムで実施
- (2) 調査対象：令和4年4月1日に在籍するすべての在校生及び保護者
- (3) 調査期間：令和4年4月21日～28日
- (4) 回答率：35.4%（生徒）、40.8%（保護者）

4 調査結果

(1) 生徒編

①食事

- ・ほとんどの生徒が、毎日3食食べていました。
- ・朝食は約6割の生徒が「ご飯中心」、昼食はほぼ全生徒が「手作り弁当を持参」、夕食は、「家族で食べる」の割合が最も高いものの、学年でばらつきがありました。間食は、約3割の生徒がほとんど毎日食べていました。

②睡眠時間

- ・「平日」は、約8割の生徒が6～7時間台でした。「休日」は、8時間台の生徒が最も割合が高く、「定期テスト期間中」は、約7割の生徒が、6～7時間台でした。
- ・学年が上がるにつれて、睡眠時間が短くなっていました。また、約2割の生徒が、休日及び定期テスト期間中の睡眠時間が不規則になっていました。

③生徒の皆さんの声（自由意見）

<食事>

- ・野菜を毎食しっかり摂るようにしています。
- ・最近食欲がない。
- ・毎日3食食べることに慣れてきました。
- ・太って、体型が変わるのが怖い。
- ・朝ごはんは毎日交互にご飯とパンを食べるようにしています。
- ・野菜を多く摂ること。
- ・好き嫌いなく食べる。
- ・空腹時間を作りすぎない
- ・食べ残しがないようにしている。
- ・体に悪いものをできるだけ食べないようにしています。
- ・どんなに忙しくても、毎日3食は摂るように気をつけている。
- ・3食抜かさず食べる努力をしています。しかし、日によってはかなりきつい日もあります。

<睡眠>

- ・睡眠時間をできるだけ統一しています。
- ・睡眠時間が足りないせいか、平日は授業中に眠くなり、休日は午後に眠くなってくる。
- ・睡眠不足にならないようにしている。
- ・通学中に寝て睡眠不足の解消
- ・部活や勉強で忙しくなり、睡眠時間を確保できるか。またそれが原因で体調を崩さないか。ストレスなどで食生活が偏らないか。
- ・睡眠時間がとれない。
- ・早寝早起きをすること。

(2) 保護者編

① 保護者が気を付けていること

上位は、①栄養バランス(67.4%)、②家族で食事を摂る(11.8%)、③楽しい時間にする(5.9%)でした。

② お子様の好きな食材

上位は、①肉類42.2%、②果物13.9%、③麺類11.9%でした。

③ 外食やテイクアウト、惣菜の利用状況

上位は、①週に1回程度(36.0%)、②月に2~3回程度(28.2%)、③月に1回程度、週2~3回(ともに11.6%)でした。一方、ほとんど利用しないは9.9%でした。

④ お子様の健康面で心配なこと・気を付けていること(自由意見)

<食事>

好き嫌いについては、「食べられるものを、きちんと食べるように気を付けている。」「体全体の様子を観察しながら、体調に合った衣食住になるように、できる範囲で調整している。」「なるべく工夫して摂れるように調理している。」等のご意見がありました。

間食については、「食べ過ぎないように声をかける」「家になければ食べないので、買いすぎないようにしている」等のコメントもありました。

また、「家族で楽しく食事をとること、薄味であることに気を付けている。」「産地、新鮮さ、広く浅く、添加物や化学調味料を極力減らす。」「野菜が沢山摂れるよう具沢山の汁物をいつも作っている。」「野菜を味噌汁に入れて食べてもらう」「万能な納豆はなるべく食べさせている。」「食べる順番を野菜から取るように勧めている。」「一日一杯は味噌汁を飲ませるようにしている。」「野菜をなるべく食べるように、お味噌汁やスープ、サラダなどで摂れるように気を付けている。」等のご意見がありました。

それぞれのご家庭で、お子さんのことを考えながら、工夫して食事を用意されていることが分かりました。

<健康>

「ダイエットと称して不必要な食事制限をしている」、「部活動があるのでカロリーに気を付けているため、摂取カロリーが足りるか心配」、「気圧の変化に弱い」、「偏頭痛があること」や「胃腸が弱いこと」、「受験でのストレスが心配」、「アレルギー」、「コロナ感染」など、難しい年頃ならではのお悩みに関するご意見が多くありました。

<睡眠>

「5時間くらいしか寝ていない」、「ちゃんと寝ているか分からない」「寝る時間が遅い」「夜更かしが習慣化している」等、学校生活の忙しさからの睡眠不足を心配する意見が多くありました。

5 養護教諭のコメント

本校の養護教諭から、アンケート結果へコメントしてもらいました。

(1)「生徒編」の結果について

ア. 食事に関すること

ほとんどが毎日朝ごはんを食べているのは望ましいことです。毎日食べない理由の1番が「時間がない」というのが気になります。昼食や夕食を食べない人がそれぞれ1名ずつおり、その理由が「食欲がない」「食べる習慣がない」というのも、また気になります。

運動部で朝ごはんを食べないとの回答がありました。家をでる時間が早くて朝ごはんを食べる時間がないのでしょうか？小さめのおにぎりなど簡単に食べられるようなものを用意して休み時間に食べるよう助言したこともあります。

イ. 睡眠に関すること

多くの生徒の毎日の睡眠時間が6～7時間なのは妥当。休日の睡眠時間が不規則な生徒が2割いるのが気になります。寝だめはできないと言われており、不規則になることで生体リズムが崩れることがあります。その状態が高じると昼夜逆転し、学校生活に支障がでることも考えられます。

(2)「保護者編」の意見について

バランスの良い食事になるようご配慮いただいていることがわかります。特に野菜を多く摂れるよう工夫されています。これは、生徒のアンケート結果にも表れていて、ご家庭での食事の様子がうかがえます。また、食事を家族で食べておいしさを共有することを意識してくださっているご家庭が多いことも本校の特徴といえるかもしれません。お子様の心身の様子を日頃から気にかけてくださっている様子がうかがえます。本人を信頼して任せることも大切なことですが、普段からの会話がお子様の変化を知ることに繋がります。

6 まとめ

アンケート結果を通じて、生徒の食事や睡眠等の状況、保護者の意識などが共通の課題として認識できたのではないかと考えます。食事や睡眠は、楽しい学校生活を過ごすための基本であり、若いときの生活習慣が今後の人生にも大きな影響を与えることから、このような調査を通じて今後もPTA活動を通じた親子の学びの機会を作れば幸いです。



＜アンケート結果の展示風景（春女祭）＞





埼玉県立狭山経済高等学校のPTA活動

「家庭教育と学校（保護者、教員の負担軽減）」

1 本校の概要

(1) 主な沿革

昭和60年（1985年）4月1日 狭山市入間川字井5141番地4に設置される。

（S62住居表示変更 狭山市稲荷山2-6-1）

全日制 商業に関する学科 共学 定員36名（8学級）

流通経済科180名、会計科90名、情報処理科90名

昭和60年（1985年）4月10日に開校式及び入学式を挙行了た。

流通経済科184名、会計科90名、情報処理科92名

昭和62年4月1日 文部省から教育課程改善のための研究開発校に指定される。（3年次）

平成7年4月 定員数変更 流通経済科120名、会計科80名、情報処理科80名

平成11年 定員数変更 流通経済科 80名、会計科80名、情報処理科80名

令和4年3月 第35回卒業証書授与式を挙行

今年で、創立38年目となる。

令和4年10月1日現在

流通経済科	男子 95	女子 125	計 220
会計科	男子 125	女子 91	計 216
情報処理科	男子 170	女子 68	計 238
			計 674



(下校風景)



(生徒昇降口)



(体育祭・準備運動)



(全国大会、関東大会出場)

(2) 目指す学校像

幅広い教養と専門的知識・技術を身につけさせ、心身ともに健康で社会に貢献できる人材の育成と共に進学にも就職にも強い学校づくりを目指す。



(校歌歌碑)

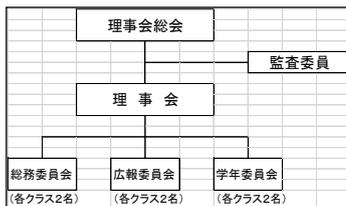
(3) 重点目標

- 1 主体的に学ぶ態度を確立させ、基礎的な知識・技術の習得と思考力・判断力・表現力等を身につけさせる。
- 2 生徒指導と特別活動を充実させ、豊かな心と健やかな体を育成する。
- 3 進路指導の更なる充実を図り、進路意識の向上と進路実現を図る。
- 4 特色ある教育活動等を積極的に情報発信し、開かれた学校づくりを一層推進する。

2 本校のPTA活動

(1) 組織

○本部役員会、総務委員会、学年委員会、広報委員会



(2) 主な活動

コロナ禍の中のため、基本的な感染防止徹底したうえで本部役員会は、PTA会長・後援会長をはじめとする18名で構成され、4月、5月、7月、10月、12月、2月計年間6回開催している。本部役員会は、理事会の議事を整理・調整するほか、PTA活動の円滑な進行のため必要な事項を審議、処理を行っている。

総務委員会は、狭山市人権教育研修会への参加など、PTA 会員相互の研修・文化教養の向上に努めている。

広報委員会は、PTA広報誌「経高」を発行するための活動を行っている。

学年委員会は、大学見学会を企画・運営していた。

その他、正門での「朝のあいさつ運動」(年3回)、入学式へ出席、入学式後の役員選出、文化祭(経高祭バザー)への参加、マラソン大会での飲み物配布、体育祭見学、授業見学、県高P連や西部地区高P連会議等への参加等を行っている。

(3) コロナ禍での活動

①年間6回程度の本部役員会を開き、活動予定や情報交換を行いPTA活動の円滑化を図り、新規事業の検討も行っている。コロナ禍のため長時間にわたる会議を開くことを避けるため、事前にSNSを活用して意見集約や意見交換を事前におこなったうえで、学校側との打合せや意見交換を行っている。

②総務委員会は、3年前までPTA研修旅行を企画していたが、コロナ禍のため残念ながら実

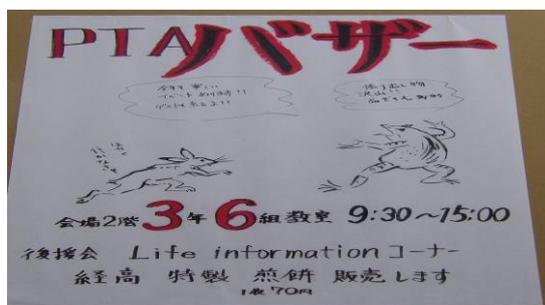
施できていない。過去には、浅草や東京ドーム方面の見学及び研修会を実施して親睦を深めていた。

③学年委員会は、大学見学会を企画し、6月頃に2校程度の大学見学等を行っていたが、コロナ禍のため3年間、未実施である。

④学年別懇談会は本校を会場に、7月に開催し、各学年とも多数の参加が見られた。

⑤広報委員会は、PTA広報紙「経高」を発行に向けて、本校を会場に委員会を開催し、編集方針をもとに、生き生きとした生徒の様子を掲載するように工夫改善を重ねてきている。

⑥3年前までは文化祭（経高祭）に「お休み処」と「バザー」で参加していた。本年度は、3年生の保護者に限り、公開した。3年前までは、バザーでは野菜・果物と保護者の手作り小物を販売していた。多くの来場者を得て野菜等は完売、手作り小物もたくさん売れていた。また、保護者による「進路相談コーナー」を設置して、中学生・保護者に在校生の保護者の立場で高校選択の経験談や入学後の高校生活について本校の特色や良さ等を伝えていた。生徒募集には大きな効果があり、復活できないか検討を始めている。



(バザーポスター)



(3年前の販売風景)

⑦校内マラソン大会のサポートとして文化祭のバザーの収益金で生徒に飲み物を配布した。生徒たちの力走に保護者の応援に熱が入る。コロナ禍前は多数の保護者の方々の応援が見られたが、ここ3年間は、保護者の一般応援は少なく、マラソン大会担当の保護者のみが生徒に飲み物を配布している。



(マラソン大会スタート)



(生徒の走っている姿)

3 コロナ禍におけるPTA活動の課題

3年前から始まったコロナ禍で学校の教育活動に様々な形でICT化が進んだ。タブレットが整備され、授業や学校行事に大きな変革をもたらした。当然ながらPTA活動も大きな影響を受けた。学校行事が中止となり、広報誌の作成発行作業や各種委員会活動が中止となったと、挙げればきりが無い状況だった。

学校は、生徒が健全に成長する場でなければならない。そのためには、保護者（PTA活動）が、学校の教育方針を理解したうえで、連携・協力していく必要がある。一方、学校職員と

PTAの方々の負担軽減（働き方改革）をどのように図っていくかも大きな課題である



(あいさつ運動)

4 家庭教育と学校における負担軽減のために

「家庭教育と学校」において、コロナ禍で十分なPTA活動ができていないし、むしろ削減している。昨年度は、集会形式の会合はほとんど中止した。本年度は、若干ではあるが緩和されたことから、集会形式で会合が開催できている。また、コロナ禍でICT化が急激に進んだ。この進んだICT化を生かして、PTA活動の負担軽減に向け、以下のとおり取り組んでいきたい。

(ア) 会議のICT化

Google meet を使用して、コロナ禍で、分散登校等を行う中、生徒にオンライン授業を行った。Google meet を活用することによって、集会形式ではなくとも会議がおこなえると考えられるので、このシステムを活用することによって、十分な家庭のICT環境調査を改めて行ったうえで検討を始めたいと考える。

(イ) PTA広報誌のペーパーレス化

本校では、県の「Net Comons」でホームページを運営している。学校HPには、PTAのタグが設けてあるので、この場所を活用することによってPTA広報委員の負担が軽減できる。今年度中に、来年度からPTA広報誌のペーパーレス化を検討しており、PTA広報誌のペーパーレス化と共に会員相互の連携、コミュニケーションを活発化できないか費用面等を含めて検討している。

(ウ) メール配信によるペーパーレス化

本校では、保護者、生徒、本校職員、後援会会員、PTA役員が「安心メール」へ登録を行っている。そこで、このメール配信を活用して様々な連絡手段として活用している。PTA活動においては、会議への出欠席確認や各種案内はすべてペーパーレスで行っている。今後はさらに、ペーパーレス化に向けて検討しく。

5 おわりに

生徒一人一人が、充実した高校生活がおくれるよう、家庭と学校の連携の必要性は言を俟たない。しかし、世の中の多様性を認めていかなければならない潮流、保護者の多様な価値観により多様性を求められている学校教育がある。

しかし、変化の激しい時代を逞しく生きる人間に成長させることが親の務めと考える。子どもは生まれた時から親を見て育つ。親が、自身を大切に、他人も大切にできる人間なら自然と子どもは学んでいくのではないのでしょうか。

高校生は未熟である。親が充実した人生を送れていれば、子どもも自然と自立した一人前の大人に育つと考える。近年の子どもたちの自殺する件数が大変気がかりです。今こそ、家庭の連携を更に強め、子どもたち一人一人の健やかな成長と共に、社会で生きぬいていく力を育てていきたいと考える。生徒と学校の強固な信頼関係を築くことに協力していくのがPTA活動の役割と考えます。

「川口高校の家庭教育」

埼玉県立川口高等学校
PTA 会長 大澤 陽久

1. はじめに

本校は、昭和16年に旧制川口市立川口中学校（男子校）として開校し、平成9年には、社会の変化に対応した魅力ある学校として共学化され、全日制の伝統校として教育・文化の中心的な役割を担いながら、81年の歴史を刻んできた。この間、社会の各方面で活躍する有為な人材を多数輩出するなど、地域に根ざした学校としても発展を遂げている。

校訓「高く正し」のもと、生徒は、高い「志」をもって、その実現に向かって正々堂々とひたむきに努力する校風を伝統としている。活気ある校風と人間教育を基盤とした多様な教育活動を通じて、生徒たちは、日々自分の可能性を追求し、学習や学校行事、部活動に高い目標をもって挑戦している。川口高校では、一人ひとりを面倒みよく大切に育て、生徒の夢を育み、希望する高校卒業後の進路実現ができるよう「何事にも1ランク上！」を目指す教育活動を進めている。

2. 本校の特色

7. 教務関係

- ・「高く、正し」という校訓のもと、教職員、生徒、保護者をチームとして捉え、生徒の可能性を追求し、進路を実現する力と人間力を高める学校を目指している。
- ・一日の始まりを落ち着いた気持ちで開始させ、授業への集中力を高めることを目的として、朝自習を奨励している。また、国語力、自ら学ぶ力を養い、本との触れ合いで豊かな人間性を育てるために、毎朝、朝読書の時間を設けている。こうした取り組みによって、遅刻者が非常に少ない状況を継続している。
- ・授業に関しては、伸ばす授業、わかる授業、参加する授業、楽しい授業を意識し、教員一人ひとりがより良い授業を目指して研鑽を積んでいる。
- ・生徒一人ひとりに指導が行き届くように、数学は1年次1クラス20名、英語は1、2年次1クラス27名の少人数授業を行っている。また、2年次からは選択科目が増え、3年次から文系・理系クラスに分かれ、わかりやすく丁寧な指導を行っている。
- ・頑張りを称え、更なる上昇を目指す志を育むため、「高く正し賞」「チーム川高賞」「諏訪山賞」といった生徒奨励賞を設けている。

4. 進路関係

- ・自分の可能性にチャレンジさせる進路指導、進研模試や河合塾模試等で全国を意識させる進路指導、一人ひとり真剣に向かい合う適切な進路指導を意識しながら、日々親身な指導を行っている。
- ・一般受験ガイダンス、総合型/推薦ガイダンス、小論文ガイダンス、面接指導ガイダンス等を数多く実施し、生徒

の進路実現を後押ししている。

- ・令和3年度の進路実績は、大学71%、短大4%、専門学校18%、就職2%、進学準備等5%となっている。

ウ. 学校行事

・新入生歓迎会、遠足、体育祭、球技大会、文化祭、修学旅行、芸術鑑賞会といった多彩な行事で、生徒の学校生活を彩り豊かなものになっている。

- ・外部講師を迎えての研修会等も、種々のものが行われ、授業以外にも生徒に「様々な学びの場」を提供している。

I. 部活動

・16の運動部、14の文化部・同好会が、学業とのバランスを考えつつ、熱心に活動している。全国大会に出場する部活もあり、充実した活動ぶりを見せている。

3. 川口高校のPTA活動

(1) 組織

本校PTAの組織は一般会員、理事及び執行部役員から成り立っている。保護者は一般会員となるが、その中から選出された理事は、生活部、文化部、進路部、広報部の4つの部のいずれかに所属し、執行部役員はPTA活動の中心となる執行部に所属して活動する。任期は3年間。

(2) 主な活動

執行部

部会と理事会を同日で、年4回開催。入学式、体育祭、文化祭、卒業式の手伝い。県高P連、関東高P連、全国高P連の総会、協議会への参加や受付などの手伝い。

広報部

年3回の広報紙発行。学校行事の取材、広報紙の企画作成作業。

文化部

文化祭での休憩所の開設と来校者にさしあげる団扇の作成。7月にヨガ教室の開催。

進路部

5月に行われる進路講演会と、6月に行われる大学訪問の運営。進路講演会では会場の準備や受付など、大学訪問は参加者と一緒に大学を見学し、見学した大学の紹介、まとめを9月の文化祭掲示物として作成。

生活部

PTAレクリエーションとして、12月にボウリング大会を企画運営。

4. 川口高校の家庭教育について

(1) アンケートの実施

全家庭にアンケート調査への協力を依頼した。子供の学年、性別、回答者の子供との続柄を答えてもらい、無記名とした。

1学期の終業式の日（7月20日）に生徒を通じて依頼文書を配布し、7月27日締切りとした。回答にはGoogle Formsを使い、997家庭中695家庭から回答を得た。回答率は70%ほどであるが、得られた回答をもとに分析していくことにする。

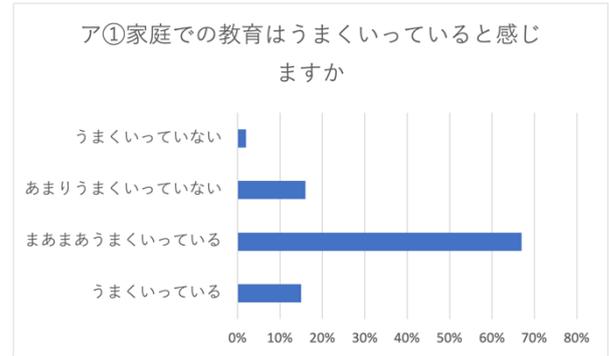
(2) アンケート結果分析

質問は35項目。これを内容から5つのグループに分け、特徴的なものを取り上げることで、川口高校の家庭教育の傾向を見ていくことにする。

ア. 全般的傾向

①家庭での教育はうまくいっていると感じますか

「うまくいっている」「まあまあうまくいっている」を合わせると82%で、かなりの家庭で家庭教育がうまくいっていると見える。そのことが、本校生徒の落ち着き、素直さに繋がっていると思われる。



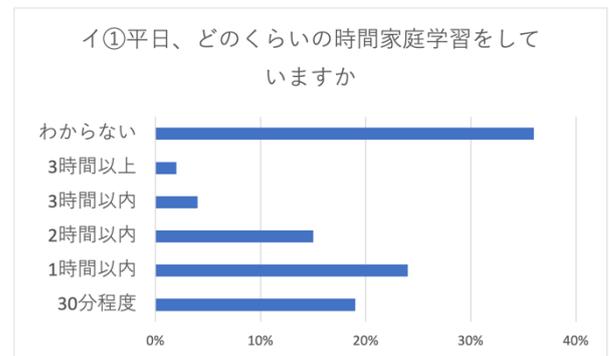
②家庭での教育において感じる課題点がありますか

「子供の学習」「子供の進路」を合わせると31%になり、学習面の課題が一番大きい。「子供の生活習慣」も13%ほどあるが、「子供の精神的安定」と「子供との関係性」は合わせても2%しかなく、精神面での課題は少ない。

イ. 子供の基本的生活習慣

①平日、どのくらいの時間家庭学習をしていますか

大きく1時間以内と1時間以上に分けると、前者が43%、後者が20%となる。「わからない」は36%であった。普段の平日ということで、この程度の時間かとも思われるが、もう少し学習意欲が増して、学習時間が長くなってくると、さらなる成長が見込まれると思われる。



②朝食は食べさせていますか

「必ず食べさせている」「できるだけ食べさせている」を合わせると89%に上る。大人も子供も生活パターンが多様化し、朝食を摂らないケースも多い現代で、朝食をしっかり摂らせることが、子供の安定した生活習慣、心身の健康に繋がっていると思われる。

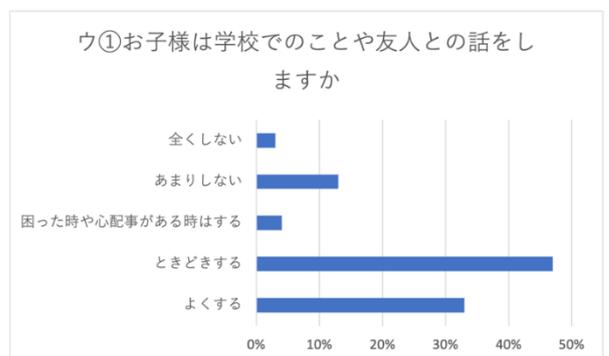
③お子様は、家で身の回りの整理整頓ができていますか

「よくできている」「まあまあできている」が合わせて50%、「あまりできていない」「できていない」が合わせて50%と、ちょうど同じ率になった。高校生ということ考えると、妥当な数字であるかもしれないが、整理整頓は基本的な生活習慣や学習習慣を確立するうえで重要な要因なので、もう少し整理整頓ができるようになると良いと思う。

ウ. 親子関係

①お子様は学校でのことや友人との話をしますか

「よくする」「ときどきする」が80%を占めた。「あまりしない」「全くしない」の16%を大きく上回っており、親子関係の良さが伺える。



②進路決定に向けて、どの程度親が関わっていますか

「かなり関わっている」「少し関わっている」が合わせて71%に上り、進路決定に際して、親の存在感がしっかりあることが見て取れる。

③お子様と進路に関して意見が一致していますか

「完全に一致している」「ほぼ一致している」で79%となっている。親子で進路希望が一致しているというのは、進路指導のやり易さの基本であり、本校の進路指導がスムーズに行われている大きな要因の一つであろう。

エ. スマホ問題

①お子様のスマートフォン使用に関して、制限をかけていますか

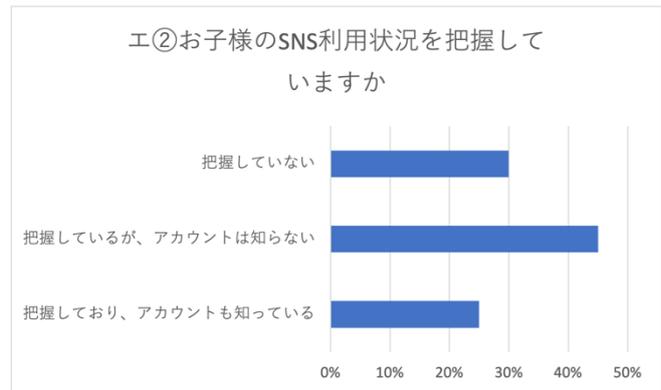
「かけている」24%、「かけていない」76%で、やはりスマホに関しては子供が好きに使っている傾向が見られる。

②お子様の SNS 利用状況を把握していますか

「把握しており、アカウントも知っている」が25%というのは、予想外に大きい数字に思われる。「把握しているが、アカウントは知らない」と合わせて70%になり、「把握していない」の30%をかなり上回った。

③お子様のスマートフォン利用に関して、トラブルが生じたことがありますか

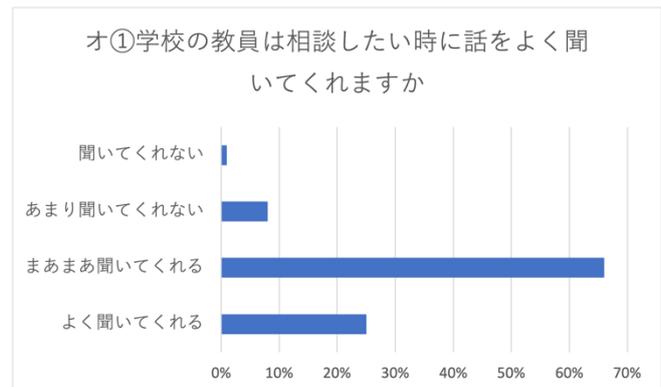
「ある」が4%、「ない」が96%。スマートフォン利用に関するトラブルがマスコミ等で様々伝えられる中においては、トラブルは少ない方であろう。



オ. 家庭と学校の連携

①学校の教員は相談したいときに話をよく聞いてくれますか

「よく聞いてくれる」「まあまあ聞いてくれる」が91%を占め、「あまり聞いてくれない」「聞いてくれない」を合わせた9%を大きく上回った。当然の結果ではあろうが、家庭と教員のコミュニケーションがうまく取れていることが確認できた。しかし、「あまり聞いてくれない」「聞いてくれない」が9%あったことも問題であり、この数字を真摯に受け止め、今後さらに家庭の信頼を得るような関係づくりを学校側は行っていく必要がある。



②今後さらに学校からほしい情報はどれですか

「進路関係」「学業関係」が合わせて35%となり、やはりこの分野の情報が望まれていることがわかった。

③学校からの情報提供の媒体としてどれが一番目にしやすいですか

「紙での通知」23%、「HP への掲載」6%と、従来から行われている方法があまり機能していないのに対して、「メールでの通知」が71%に上り、手軽に即時的に情報を確認できる方法を望む声が多いことが見て取れた。今後は、この結果を参考に、より手軽に、そして確実に学校からの情報が家庭に伝わる方法を模索していく必要がある。

(3) まとめ

今回のアンケートを通して、本校においては家庭教育がおおかたスムーズに行われていることが見て取れた。しかし、学習時間、生活習慣等、まだまだ改善の余地があることも見出すことができた。

また学校との信頼関係、学校と家庭の情報の共有手段等も、今後さらに考えていく必要があることがわかった。

今回のアンケートだけで、本校の家庭教育の全貌が明らかになったわけではもちろんなく、今後いろいろな側面から情報を集め、より良い姿を模索していかなければならない。

今回アンケートを行うことによって、少しでも問題点が見いだせたことは大変に良かったことである。アンケートは手段であり、目的ではない。今回の結果から、改善に向けて実際に行動し、変化を生じさせることが何より重要なことである。今後問題点を共有しながら、行動につなげていきたいと思う。

令和4年度埼高P連北部支部

「家庭教育とPTA」発表資料 埼玉県立深谷商業高等学校

PTA会長 中村 千尋

1 はじめに

本校は、商業科（4クラス）、会計科（1クラス）、情報処理科（2クラス）の3学科を有しており、学校創立は大正10年（1921年）、新しい時代を担う地域人材を育てるために創立されました。県立の商業高校としては最も古く、卒業生は27,000名に及び、地域や様々な分野で活躍しています。また昨年の11月には「学校創立100周年記念式典」を盛大に挙行了しました。

大正から昭和の初めにかけて、埼玉県立商業学校、「埼商」と呼ばれ、校章にある一本の白線は「一商」、埼玉県で一番目の商業校であることを示しています。著名な同窓会員として、新井昌則（元プロ野球選手）、竹内広明（元プロ野球選手）、鳥羽博道（ドトールコーヒー設立者）、土屋嘉雄（ベイシアグループ創業者）などがいます。

創立間もない大正11年には、深谷市出身の「近代日本資本主義の父」といわれた渋沢栄一翁が本校を訪れ、二層楼（現 深商記念館）にて生徒に講義を行い、「至誠（しせい）」「士魂商才（しこんしょうさい）」という言葉いただきました。以来これが本校の校訓となっています。「至誠」とは「誠実な心を持って様々なことにあたること」そして、「士魂商才」とは「義を重んじる武士の精神と高い志を持った商人の才能を持つこと」を意味し、「商業は常に道徳を根底とし、世の中のために利益を還元することが大切である」という教えも残されました。本校は、この渋沢栄一翁の教えを基に、「次の100年」に向けて、また新たな一歩を踏み出しています。



国指定登録有形文化財「二層楼」



渋沢栄一翁、直筆の書「至誠」



渋沢栄一翁、直筆の書「士魂商才」



大正11年、渋沢栄一翁が本校を訪れた時に、手植えした松の木

2 本校の教育活動の特色

① 商業高校で資格取得を！

資格は全国共通の「商業の実力」を示すものです。本校では様々な検定試験にチャレンジし、全国商業高等学校協会（全商）主催の検定試験を授業に関連付けて実施しています。昨年度、全商主催の各種検定のうち3種目以上1級を取得した生徒は127名で県内最多となっています。ちなみに県内2位の学校は65名です。全国的に見ても、全商協会加盟校約1,400校中19位となっています。

また、日本商工会議所主催簿記検定試験や経済産業省情報処理技術者試験などの国家試験にも多数の合格者を出しています。

② 就職・進学ともに充実した進路実績！

本校は進学・就職どちらにも対応できるのが特徴です。進学では資格取得を生かして多様化する入試制度に対応し、多くの生徒が著名な大学への進学を果たしています。

就職では、県内・地元の優良企業からの求人が多く、金融関係、事務職関係には商業高校の強みを生かし、多くの生徒が就職しています。昨年度の進路内訳は、就職91名（34.6%）、4年制大学47名（17.9%）、短期大学7名（2.7%）、専門学校116名（44.1%）、公務員1名（0.4%）となっています。

③ 部活動で人間力を！

本校には13の運動部と14の文化部があります。運動部では昨年度、山岳部が関東大会へ出場権を獲得しました（関東大会中止）。その他、陸上競技部、男女ソフトテニス部、卓球部、女子バレーボール部、バトミントン部が県大会で活躍しています。

文化部では簿記部が36回連続、コンピュータ部が33回連続で全国大会出場を続けています。また、昨年度はビジネス部が全国大会に出場しています。その他、写真部、美術部、文芸書道部が各種展覧会で入賞しています。

部活動を通じて、生徒は日々仲間と切磋琢磨し、個々の技術向上を目指すとともに、その人間力を向上させています。

3 本校のPTA活動

(1) PTA組織

本校PTAには、会長1名、副会長7名、支部長9名（9支部に分かれています）、幹事5名、監事2名、常任理事29名で構成されています。また、生徒指導委員会、進路指導委員会、研修委員会、広報委員会の4つの委員会があり、副会長、幹事（広報委員会を兼ねる）、常任理事の方々に、この4つの委員会に所属してもらい、各種PTA活動を行っています。本校のPTA活動の概要は以下のとおりです。

なお、※は、令和4年度、新型コロナウイルスの影響で中止にした行事です。また11月以降の行事は、今後実施予定となっています。

1学期	2学期	3学期
4月 入学式 各支部総会	9月 第2回常任理事会 10月 文化祭バザー（※）	1月 第4回常任理事会 新年会
5月 PTA・後援会総会 歓送迎会（※）	11月 朝の交通安全指導 ロードレース大会補助	3月 卒業式 PTA広報誌発行

朝の交通安全指導	12月 1日研修旅行	
6月 第1回常任理事会	第3回常任理事会	
進路バス見学会（※）		
7月 各支部別懇談会		
P T A広報誌発行		



令和4年度入学式



令和4年度P T A・後援会総会

4 各委員会の活動

(1) 生徒指導委員会

生徒指導委員会では、登校指導と歓送迎会の企画、立案、活動を行っています。

登校指導は年2回、5月と11月にP T A生徒指導委員会のメンバーと全教職員で朝の生徒の登校指導を行っています。主に自転車通学者の交通ルールやマナーの徹底、挨拶の励行を目的に実施しています。参加した生徒指導委員会の方々からは、「家庭では見ることのできない生徒の様子や登校する姿を見ることができてよかった」、など毎回、好意的な意見が寄せられています。

歓送迎会は、毎年5月にP T A・後援会総会の後に行っています。新旧役員の顔合わせや引継ぎなど、先生方とP T A役員の方々とのコミュニケーション取る大事な機会となっています。



今年5月の登校指導の様子

(2) 進路指導委員会

進路指導委員会では、進路バス見学会、文化祭バザー、ロードレース大会補助の企画、立案、活動を行っています。

進路バス見学会は6月に、企業、大学、専門学校の3か所を見学しています。例年

バス2台(80人定員)で実施し、保護者からは大変人気のある行事となっています。

文化祭バザーは、文化祭の一般公開の日(土曜日)に実施しています。10時の入場と同時にバザーは始まりますが、だいたい11時頃には準備していた商品が全て完売となります。なお、バザーの収益金は生徒会に寄付しています。

ロードレース大会補助は、11月に行われる校内ロードレース大会の時に、交通整理、沿道での応援、ゴールした生徒に飲み物を渡すなどのお手伝いをしています。

(3) 研修委員会

研修委員会では、PTA・後援会1日研修旅行、新年会の企画、立案、活動を行っています。PTA・後援会1日研修旅行は、例年、劇団四季が主催する芸術鑑賞を中心に実施しています。その他、ホテル等での昼食も楽しみであり、定員80名の募集がすぐに埋まるほどの人気となっています。今年度は12月3日に実施する予定です。(内容は劇団四季の「美女と野獣」です)

新年会は、1月の第4回常任理事会の後に実施しています。来年度に向けて、新役員の選出方法や新PTA会長の人選など、5月の歓送迎会と同様に先生方とPTA役員の方々とのコミュニケーションが取れる大切な行事の一つとなっています。

(4) 広報委員会

広報委員会では、年2回、7月と3月にPTA広報誌、「二層楼」を発行しています。

広報委員会の人数は7人で、4委員会の中では一番少ない人数ですが、皆で協力しあいながら、毎回工夫を凝らした広報誌を発行しています。

5 おわりに

以上、各委員会の取り組みについて述べましたが、令和2年2月からのコロナ禍の状況で、令和2年度～令和3年度はすべてのPTA行事(学校行事)が実施できない状況が続いています。本校では、ここ2年間で活動できたのはPTA広報誌の発行ぐらいで、他の委員会はほとんどの行事(仕事)ができずに今年度になっています。したがって、先生方もPTA役員の皆様も仕事の引き継ぎや行事の引き継ぎができていないため、何をどのように実施すればよいか分からない状態となっています。

今年度からは、「たとえコロナ禍の状況でも、できる行事はやりましょう!」を合言葉に、徐々にですがPTA行事を実施しています。今年度実施したPTA行事は、4月各支部総会、5月PTA・後援会総会、朝の登校指導、7月各支部別懇談会など、ここ2年間は中止にしていた行事を実施しました。今後の大きな行事としては12月3日にPTA・後援会1日研修旅行を行う予定です。

まだまだ、コロナの終息は全く見えない状況ですが、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍でもできることはある」、という前向きな姿勢でPTA活動を行いたいと考えています。各種PTA行事が中止となり、学校とPTA活動が疎遠となりつつありますが、今後も、保護者と学校が協力して教育活動を行い、生徒のためによりよい教育環境づくりを行いたいと思います。